

# 仲町小 学校だより



メールアドレス e-mail : nakacho-e@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス <http://nakacho-e.saitama-city.ed.jp/>

## アートに触れて

校長 河野 秀 樹



Mizuki the City さんと

校長室を出て職員室に向かう途中、ルノアールの絵があります。私の好きな「ムーラン・ド・ラ・ギャレット」です。児童の昇降口を上がっていくと、正面に子どもたちの生き生きとした作品が展示された「子ども美術館」があります。私は常々「アートというのは難しいなあ」と思います。「この絵はなぜ美しいのか？」と問われても、上手く説明することができないからです。皆さんはどうでしょうか。

### 〈Mizuki the City さんとの出会い〉

昨年2月に1枚の葉書が学校に届きました。それは「MIZUKI THE CITY 個展 2023」が、3月にうらわ美術館で開催されるというものでした。会場を訪れると、芸術家の Mizuki the City さんが直接一つ一つの作品を手寧に説明してくださいました。その後話が弾み、本校の卒業生であること、小さいころは自由帳やチラシの裏面によく架空の物語や細かい世界の絵を描いていたこと、小学生の時の夢は映画監督か絵を描く人になりたかったこと、中学・高校と進んだ後、夢を追い求めて昼は画材の購入のためにアルバイトをし、夜はデザイン学校で学んだことなど、少しはにかみながらも一所懸命に話してくださいました。本校の卒業生が夢を実現し、大好きな絵で人々を楽しませていることに、誇りと喜びを感じました。その後、マネージャーをしているお母様と一緒に来校していただき、アートフェスティバルで特別に作品を展示していただくことを承諾してくださいました。Mizuki the City さんの緻密でユーモアあふれる作品を、皆さんに間近で鑑賞してもらえるのが今から楽しみです。

今年度、本校ではゲストティーチャーをお招きした出前授業を2回行いました。アート・イン・スクールでは、光の造形作家のみやうか氏が、たまごのランプ作り「ひみつのたまご」の授業をあおぞら学級で、「さいたま国際芸術祭 2023」のアウトリーチプログラムでは、彫刻家の石上城行氏と写真作家の浅見俊哉氏が、身近な公園を散策して絵を描く「別所沼の光を感じて描く」の授業を4年生に行いました。

### 〈石上城行（いわがみ しろゆき）氏の絵画指導〉

別所沼公園で集中して描いていた子が、間もなく「絵が終わりました」と見せに来ました。石上氏は「いいね」「ほかの友達はまだ描いているから、どんな絵を描いているか見に行ってみて」と声をかけました。その子は自分と違うものを描いている子の近くに行き、参考になっているようでした。また、別の子には「これは何を描いたの」「どうしてこのように描いたの」と声をかけて回ります。「このあとどう描いたらいいですか」と聞いてくる子には、「ちょっと離してみてもいいよ」「絵の方から何か言ってくるのがないかなあ」などと次々と返していきます。ほとんどの子は、自分で問うて、自分で答えを見つけ、再度絵に取り組んでいました。ある子はフラフラと遊具にもたれかかっている、終了前によく紙に向かいましたが、石上氏はその子に対して決して否定的な見方はしていませんでした。「あのような行動をしながら、何か考えているんですね」と。教室に戻って画材を絵の具に変え、周囲に比べると弱い感じがしないか？と話しかけました。その後、その子は何度も筆を入れていました。

すべての子どもたちに可能性があります。教育の目的は「子ども一人ひとりが未来の社会を作り出していく主人公のような存在になること」だと考えます。そのためには、一人ひとりの可能性を引き出し、伸ばしてあげることが、私たち大人の役割なのだと改めて感じました。